

下鴨神社(賀茂御祖神社)

周辺エリア

～下鴨村・河合神社・泉川・賀茂街道・大原街道～

エリア概要

- 賀茂川と高野川の合流点にある下鴨神社及び河合神社一帯は、門前集落のほかは農地が広がっていたが、近代以降は住宅地化が進展していった。
- 下鴨神社及びその周辺については、賀茂川と高野川の両河川の合流点に位置する下鴨神社の森が、市内中心部から眺望される重要な森であり、また賀茂大橋からは北山・比叡山の前景をなす森でもある。この下鴨神社及び河合神社の一帯は、糺ノ森も合わせ、

大きな森を形造っており、市街地内における貴重な自然系の景観資源となっている。

- 鴨川河岸の樹木が、鴨川風致の核である植物園、下鴨神社、糺ノ森などの優れた緑地空間と川の清流と一体となって、他の大都市では見られない都心の水と緑の空間を構成している。

視点場 (境内)

 視点場 (参道等)

 特に着目する通り

 (白線) 主な通り

下鴨神社(賀茂御祖神社) (世界遺産)

下鴨神社(賀茂御祖神社)は、賀茂川と高野川に挟まれた合流部にあり、糺の森に囲まれ、荘厳な雰囲気漂わせる。糺という名前は、この地の地形が由来している。糺の森は古代より広大な森林域を備えていたという。



下鴨神社楼門



糺の森

泉川

高野川の水は、まず松ヶ崎村を潤して、それから泉川となり下流の下鴨に流されていた。¹⁾

泉川は、生活用水だけでなく川沿いの庭園も利用された。現在もそのような庭園がいくつか存在し、住民に身近な川である。



下鴨神社参道

下鴨神社の参道は、葵祭の行列が下鴨神社へ入る経路としても重要な意味をもっており、沿道景観として社家町の雰囲気を見ることができる。



参道

加茂街道

下鴨社と上賀茂社を結び、賀茂川右岸を出町柳から御園橋を経てさらに高橋に至るまでの道である²⁾ニレ科のケヤキ・エノキなどの大木が並び、現在は一部を葵祭の行列が通っている。



河合神社

糺の森にある賀茂御祖神社(下鴨神社)の摂社。一般には高野川と賀茂川合流地にあたることから河合社とよばれ、只洲社とも呼ばれる。³⁾



河合神社本殿

下鴨村と下鴨中通

下鴨村は下鴨神社を地域の中心として、下鴨中通沿いに発達してきた近郊農村である。⁴⁾

明治以降は都市近郊という立地条件から急速に住宅地となった。⁵⁾

昭和3年に工事が始まり、同じ17年に現在のよう南北1.7キロ、幅22メートルの下鴨本通りができたが、しばらくは舗装されず、市バスが通るようになったのは昭和24年頃のことであった。

この工事により、下鴨の社家町はほとんどなくなったというが、⁶⁾現在も残る社家はいくつか見られる。



鴨脚家住宅

(『京都市内未指定地文化財庭園調査報告書 第二冊』)

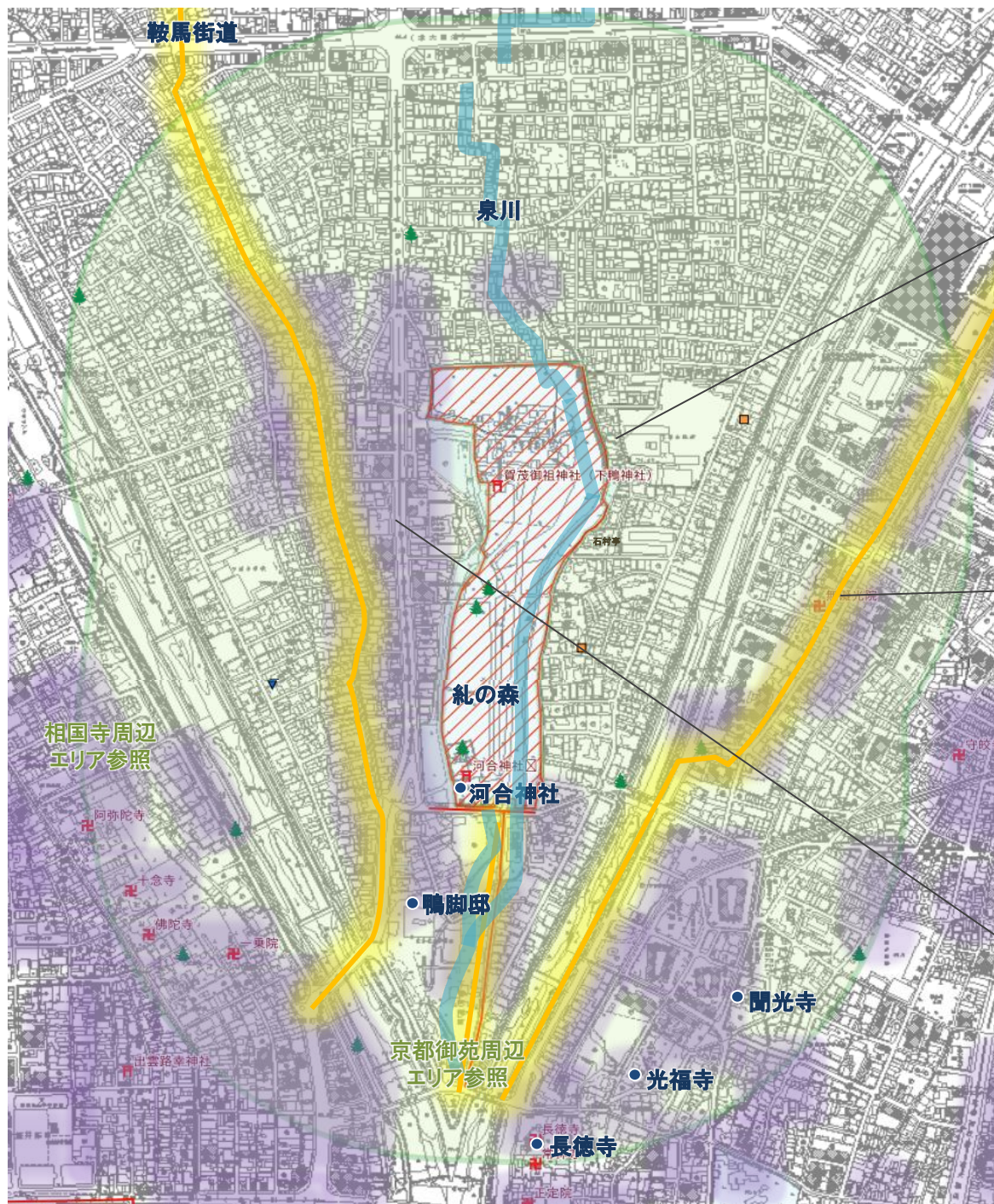
大原街道

御蔭祭とは、葵祭にさきがけ、前儀として下鴨神社の摂社・御蔭神社で行われる葵祭の神霊をお迎えする祭儀のことであるが、かつての行列のコースは、下鴨神社・糺の森から御蔭橋を渡り、大原街道を北に向かったと言われている。⁷⁾



大原街道沿いの町並

エリアの概要



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】			
	視点場（境内）		樹木
	視点場（参道等）		天然記念物
	近景デザイン保全区域		保存樹・区民の誇りの木
	特に着目する通り		
	明治25年以前から存在する市街地		京都を彩る建物や庭園
	界わい景観整備地区		文化財（建築物）
			文化財（史跡・名称）
			国土地理院社寺データ等 ※

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

泉川と周辺の庭園

泉川は市民の憩いの場であり、最も親水性のある遊びの川であった。⁸⁾また、下鴨村の農民は鴨川と高野川の水を利用し農作を行っていた。高野川の水は、まず松ヶ崎村を潤して、それから泉川となり下流の下鴨に流されていた。⁹⁾

泉川は、生活用水だけでなく川沿いの庭園に水を引いていた。現在もそのような庭園がいくつか存在する。



石村亭庭園



鴨脚家庭園

←（『京都市内未指定地文化財庭園調査報告書 第二冊』）



北大路通以北の泉川

大原街道

御蔭祭とは、葵祭にさきがける祭儀のことであるが、行列のコースは、下鴨神社・糺の森から御蔭橋を渡り、大原街道を北に向かったと言われている。御蔭山南山麓の「御生寺」の橋から出発し、赤山通、修学院村を通り、音羽川橋を渡り、一乗寺下り松を通り、赤の宮、新田村を通り下鴨神社へ至る。この道筋が御生神事還立行粧の「神幸道」であり、行列が大原街道を歩いていた光景が見られたであろう。¹⁰⁾

現在の御蔭祭は、地域の中学生在が参加するなど、葵祭より地域に身近な祭りとなっているようだ。



大原街道沿いの町並

下鴨村

下鴨村は下鴨神社を地域の中心として発達してきた近郊農村である。¹¹⁾ 応仁の乱で京は焼け野原となり、上京区の相国寺や、百万遍の付近に大きな家を構え、下鴨神社に仕えていた社家が糺の森に集まり社家町を形成していったようだ。¹²⁾

明治以降は都市近郊という立地条件から急速に住宅地となった。¹³⁾ 昭和3年に工事が始まり、同じ17年に現在のような南北1.7キロ、幅22メートルの下鴨本通りができたが、しばらくは舗装されず、市バスが通るようになったのは昭和24年頃のことであった。この工事により、下鴨の社家町はほとんどなくなったというが、¹⁴⁾ その中でも、社家の子孫である鴨脚家、廣庭家は近代以降に建替えられたものではあるが、土塀と屋敷構えを共通して持ち、その屋敷構えは下鴨社家町の歴史性を引き継ぐものとして貴重である。¹⁵⁾



鴨脚家住宅

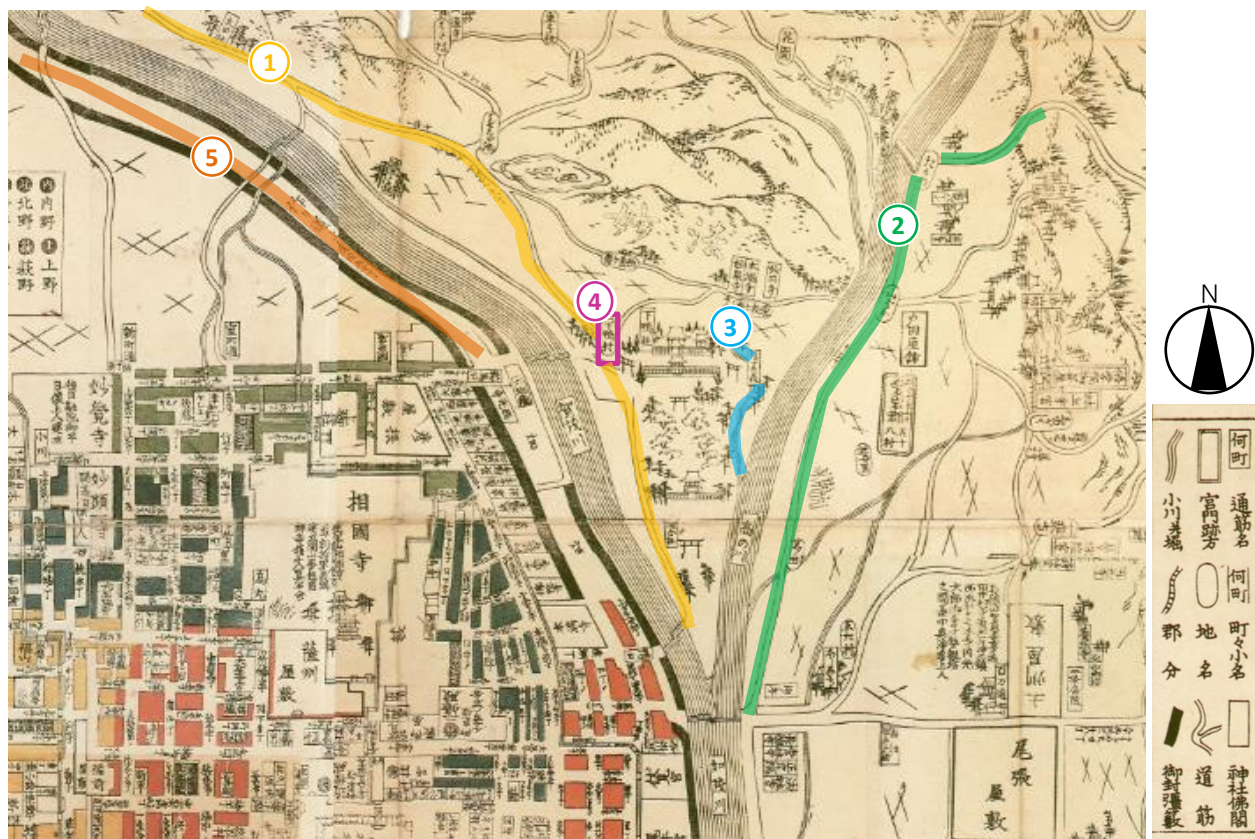


廣庭家住宅

（『京都市内未指定地文化財庭園調査報告書 第二冊』）→

エリアの土地利用の変遷 (1)

明治2年(1869年)(上地政策による境内地減少前)



京町御絵図(明治2年)



図1 拾遺都名所図会「御蔭社御祭」(国際日本文化研究センター所蔵)



図2 都林泉名勝図会「河合納涼(糺の納涼)」(国際日本文化研究センター所蔵)

① 鞍馬街道

かつて、現在の下鴨中通は鞍馬街道と呼ばれ、鞍馬寺が建てられた平安時代より「鞍馬もうで」の道として人々から親しまれていた。昭和の始めまで、鞍馬寺の門前町に京や若狭、丹波の商人が集まり大きな「市」が開かれていたため、その日の中通は、京の商人と荷を運ぶ牛や馬で一日中にぎわったそうだ。³⁷⁾

② 大原街道

「大原口」は京の七口の一つである。今出川寺町の交差点には慶応4年建立の道標がある。そこには、「東 下かも 比叡い山 吉田 黒谷 真如堂 坂本城」「北 上御霊 上加茂 くらま 大徳寺 今宮」と書かれている。また、御蔭祭の行列のコースは、下鴨神社・糺の森から御蔭橋を渡り、旧若狭街道(地元では、新田街道)を向かったと言われている。御蔭祭とは、葵祭にさきがけ、前儀として下鴨神社の摂社・御蔭神社で行われる葵祭の神霊をお迎えする祭儀のことである。御蔭山南山麓の「御生川」の橋から出発し、赤山通、修学院村を通り、音羽川橋を渡り、一乗寺下り松を通り、赤の宮、新田村を通り下鴨神社へ至る。この道筋が御生神事還立行粧の「神幸道」であり、行列が大原街道を歩いていた光景が見られたであろう。¹⁶⁾

③ 泉川

人工の水路であると考えられている泉川は、はっきりとした間削年代は特定できていない。¹⁷⁾ 下鴨神社内の御手洗川から発して奈良の小川、瀬見の小川に至る流水は神事用の河川で、その水際には数々の遺跡が見られたのに対して、泉川は市民の憩いの場であり、最も親水性のある遊びの川であった。図2を見ると、泉川に沿って茶店や料理店が出ていた。今より幅が広く、豊かな水が流れていたことが分かる。¹⁸⁾ また、下鴨村の農民は賀茂川と高野川の水を利用し農作を行っていた。高野川の水は、まず松ヶ崎村を潤して、それから泉川となり下流の下鴨に流されていた。¹⁹⁾

④ 下鴨村

下鴨村は下鴨神社を地域の中心として発達してきた近郊農村である。²⁰⁾ 応仁の乱で京は焼け野原となり、上京区の相国寺や、百万遍の付近に大きな家を構え、下鴨神社に仕えていた社家が糺の森に集まり社家町を形成していったそうだ。²¹⁾

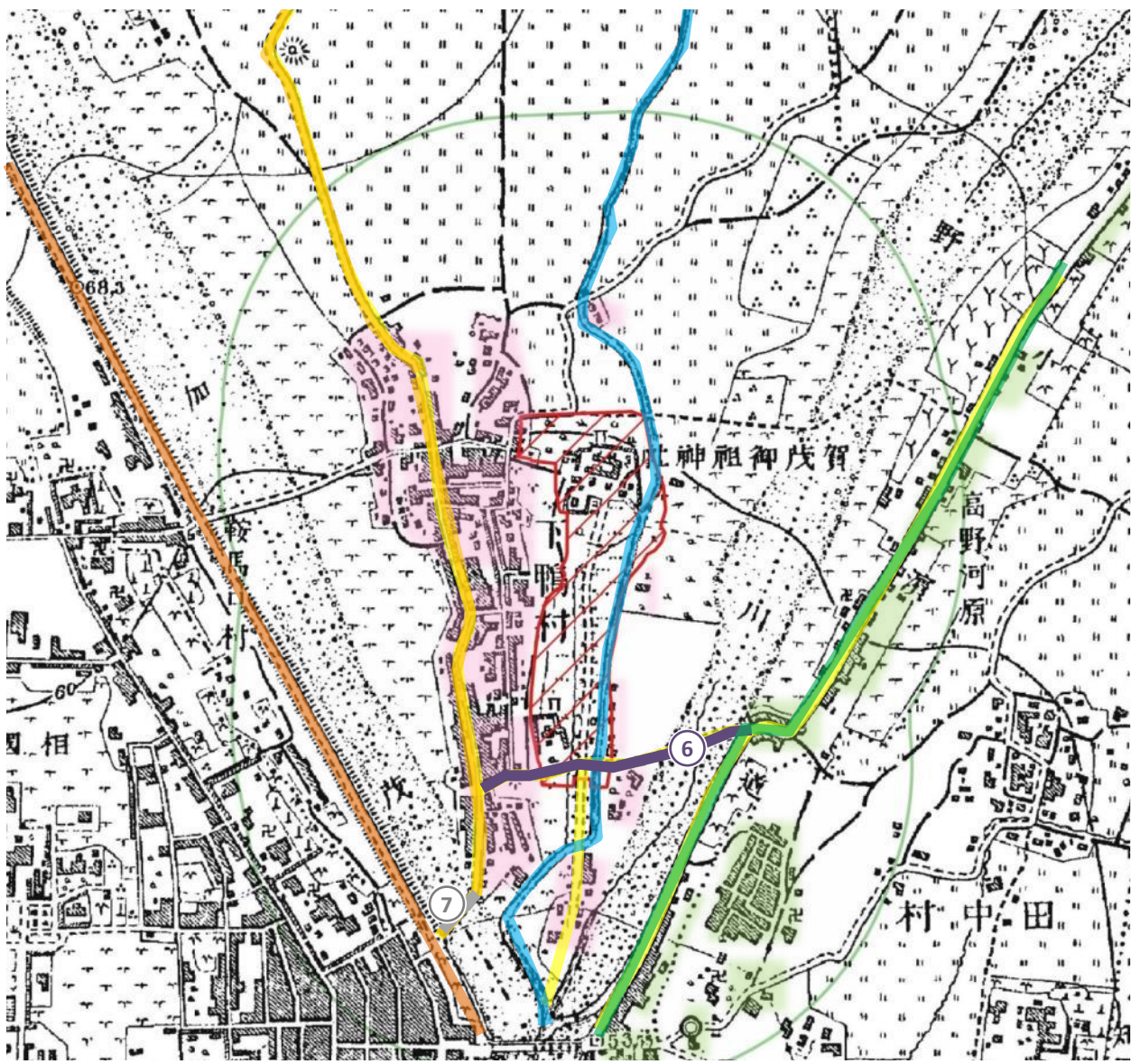
また、下鴨神社と村民の関係は領主と百姓という他に宗門改修は村で取りまとめて神社に差出、神社から町奉行に提出することになっており、親密な関係だったという。²²⁾

⑤ 賀茂街道

「賀茂街道」という名は描かれておらず、「作り道」と書かれていることが分かる。これは、下鴨社と上賀茂社を結び、賀茂川右岸を出町柳から御蔭橋を経てさらに高橋に至るまでの道である。²³⁾

エリアの土地利用の変遷 (2)

明治25年(1892年)



 近景デザイン保全区域
 特に着目する通り
 視点場(境内)

資料: 仮製地形図(明治中期)(国土地理院所蔵)
 画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

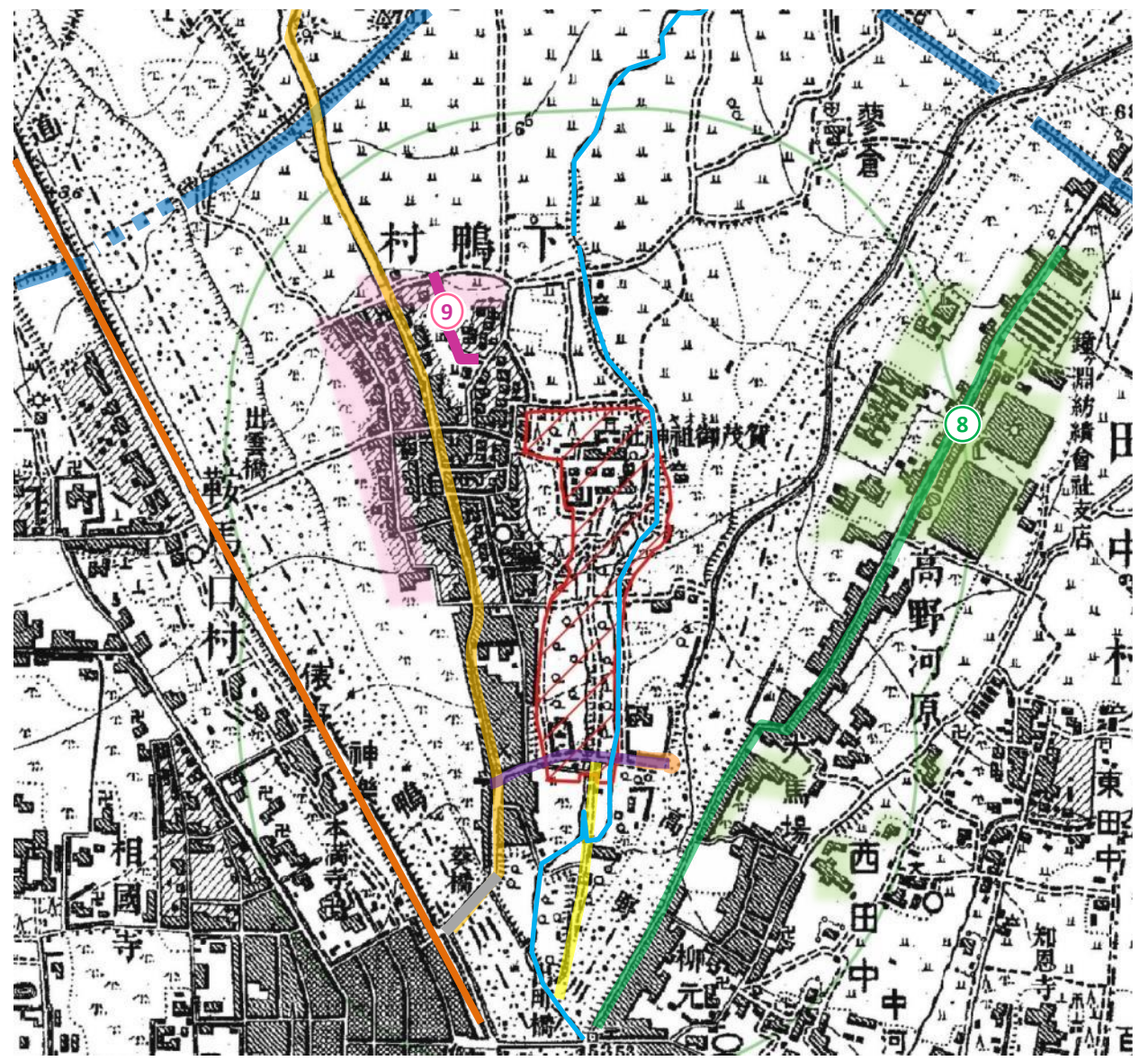
⑥ 御蔭通
 明治2年の絵図には描かれていなかった御蔭通が描かれている。

⑦ 葵橋
 葵橋は、明治17年5月に府費で改造されたといひ、葵橋は、賀茂祭のために初めて作られた橋なので葵橋と名付けられたという。²⁴⁾



写真1 下鴨村を歩く葵祭の行列³⁸⁾

大正元年(1912年)



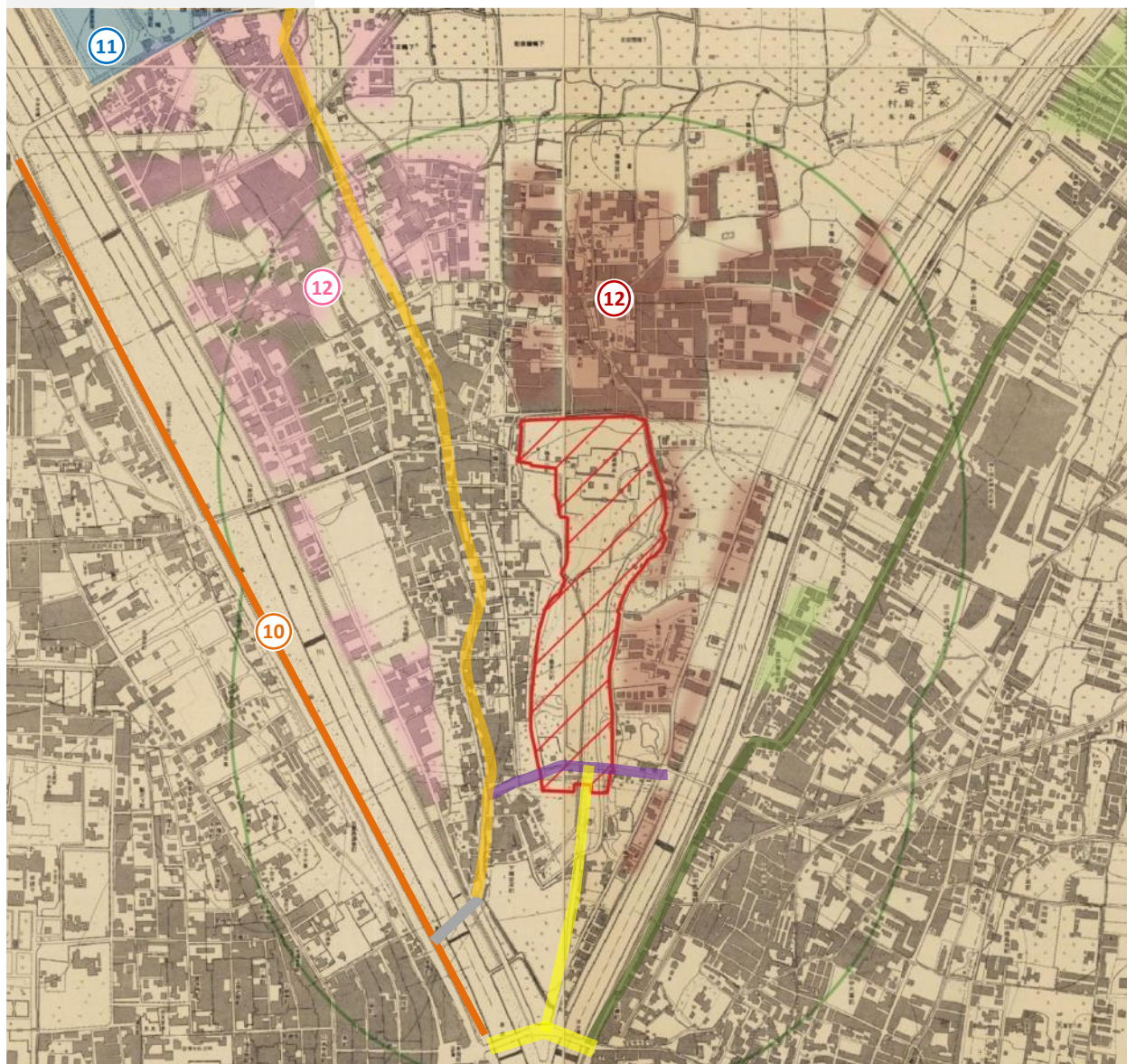
資料: 正式地形図(大正元年)(国土地理院所蔵)
 画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

⑧ 大原街道
 街道沿いが急速に市街化していることが分かる。高野川流域には水利の便と水質の良さによって鐘坊京都支店工場・都染工場・清藤工場などが開業して、繊維染物の工場地帯となり、著しく人口が増加した。²⁵⁾

⑨ 下鴨村
 下鴨神社北側の道が少し増えているが、ほぼ明治中期の道をなぞっていることが分かる。
 写真1は明治末期の葵祭の様子である。農家の建物が道沿いに並び、その中を行列が歩いていた。
 明治4年の「社寺上知令」によって、下鴨神社の新たな境内は本殿等各建物の敷地のみに限定された。これを契機に、土地の所有関係をめぐる従属関係も一部失われたのではないかと考えられ、神社との関係は希薄化していったと考えられている。²⁶⁾
 明治以降は都市近郊という立地条件から急速に住宅地となった。明治10年代には、戸数290戸、人口は約1500人を数えた。²⁷⁾

エリアの土地利用の変遷 (3)

昭和4年(1929年)



資料:京都市都市計画基本図(昭和4年)(京都府立総合資料館所蔵)
画像:立命館大学アート・リサーチセンター

⑩ 加茂街道

大正9年に「加茂街道」と名付けられたといわれる。²⁸⁾

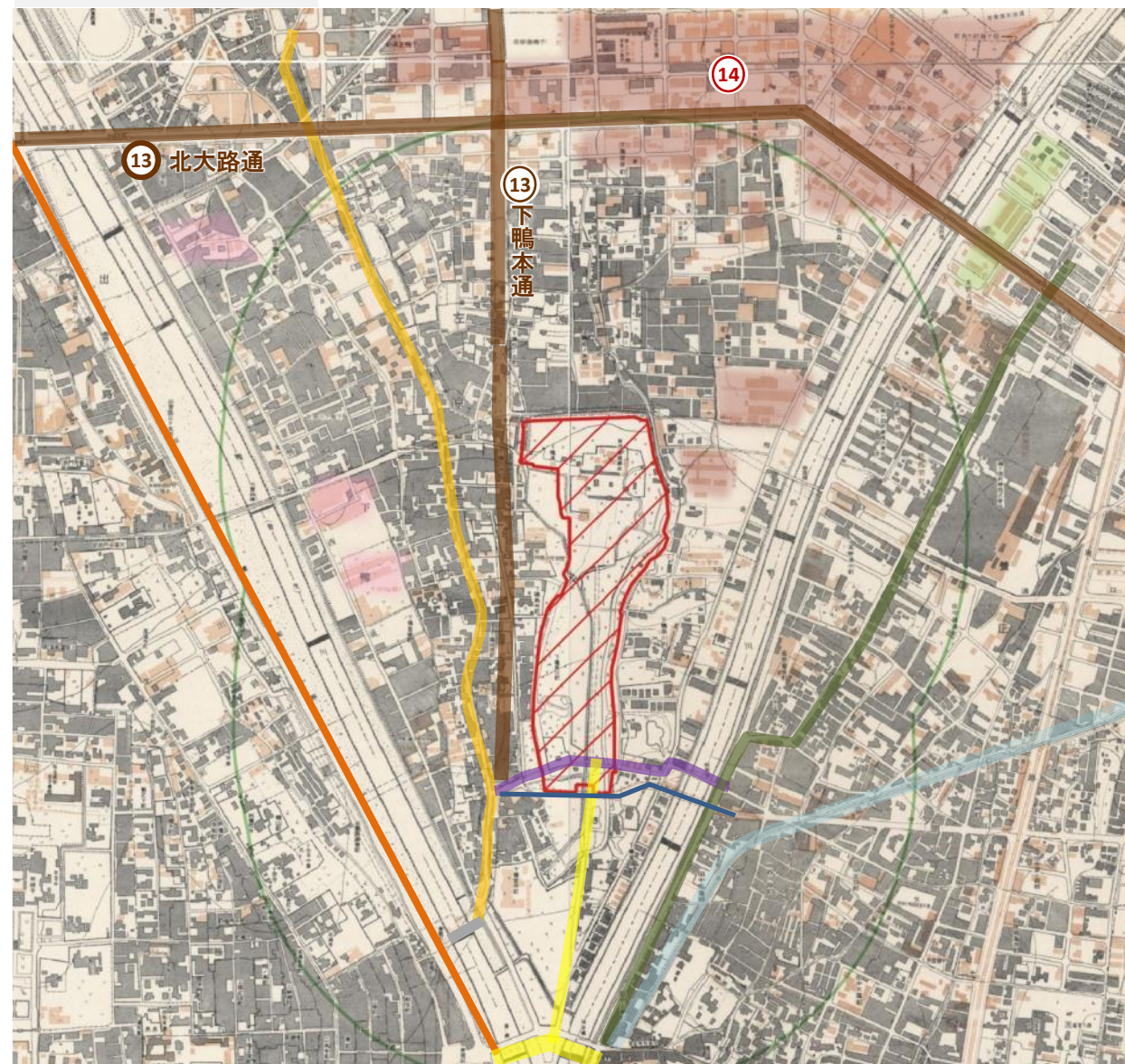
⑪ 京都府立大学・京都府立植物園

大正7年に桂から府立農林学校(現京都府立大学)が、大正13年には上賀茂村との境界に大典記念京都植物園(現府立植物園)が開園し、住宅地と教育文化施設の集まる文教地区として今日の景観に至っている。²⁹⁾

⑫ 下鴨神社北部・西部

大正7年には、下鴨村は京都市上京区下鴨に変わり、大正11年の京都市の都市計画区域の決定により、下鴨の景観は大きく変化した。³⁰⁾スプロールの的に市街化が広がっている。

昭和28年(1953年)



■ 昭和10年都市計画図の内容

■ 昭和28年の修正測図

資料:京都市都市計画基本図(昭和28年)
(京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号))
画像:立命館大学アート・リサーチセンター

※ この地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/3,000)を参考にし、作成したものです。

⑬ 北大路通・下鴨本通

左京区になるのは昭和4年のことである。その後、土地区画整理事業が進み、昭和5年に下鴨本通りと北大路通りができた。³¹⁾

昭和17年に現在のような南北1.7キロ、幅22メートルの下鴨本通りができたが、しばらくは舗装されず、市バスが通るようになったのは昭和24年頃のことであった。

この工事により、下鴨の社家町はほとんどなくなったという。¹⁴⁾

⑭ 下鴨神社北部

下鴨神社北部は昭和5年から昭和14年ごろまでに区画整理事業が施行され、市街化が一気に進んだ。

下鴨神社境内の歴史的資産と守っていききたい眺め

下鴨神社

賀茂御祖神社の境内地では、発掘調査により縄文時代の遺跡が発見されており、当神社が歴史的に重要な場所に位置していることが早くから知られている。

平安京造営にあたっては国家鎮護の神社として朝廷の崇敬を集めており、11世紀初頭には現代に近い姿に整えられた。その後14世紀始めまでは式年造替が実施されていたが、応仁・文明の乱により、衰微した。

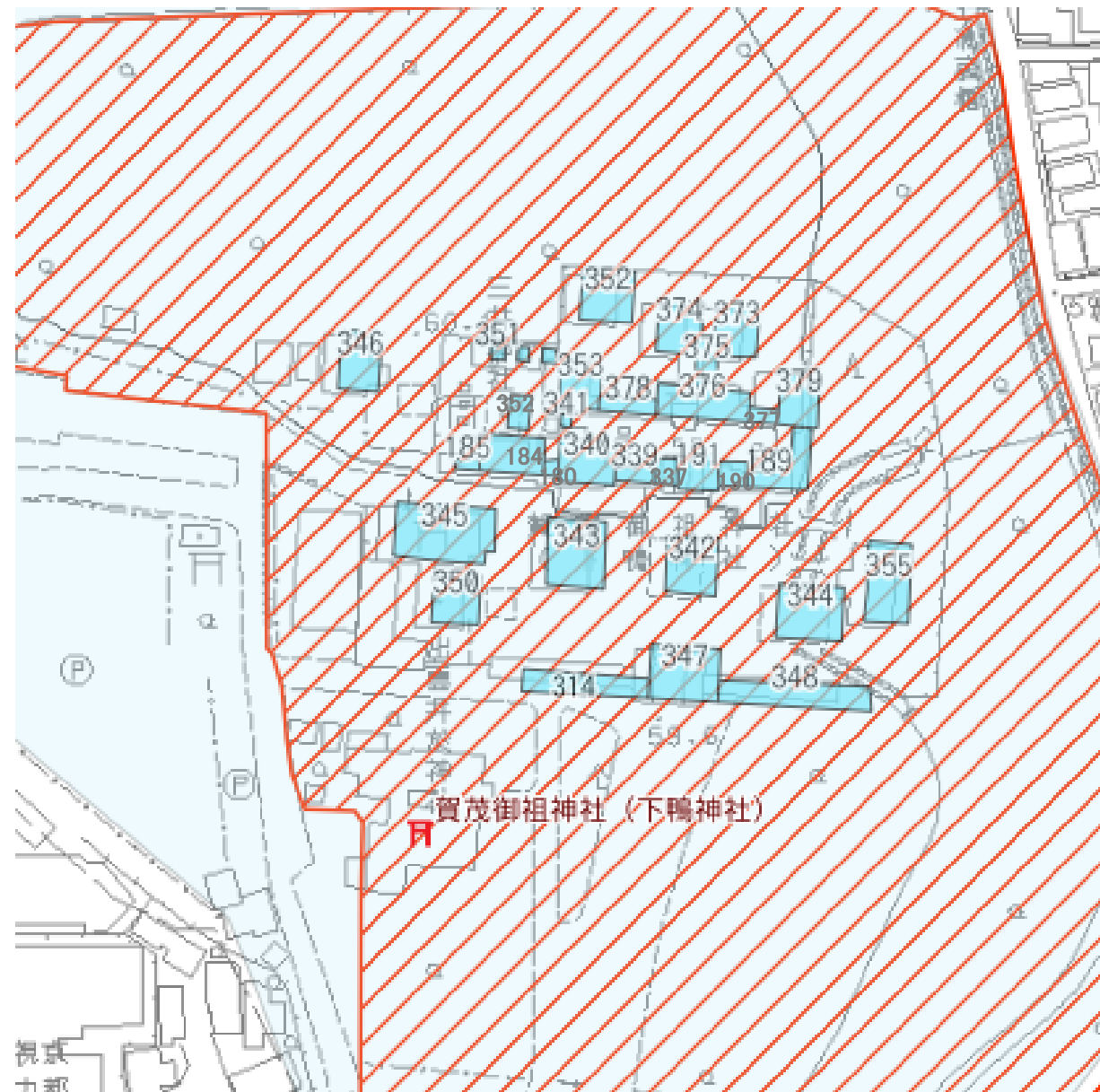
国宝の東本殿・西本殿は、賀茂別雷神社の本殿、権殿同様、流造り本殿の代表例であり、他に31棟の建造物が重要文化財に指定されている。

天正9年（1581）の造替の時、境内全体に整備が進められて平安時代の状況が再現され、その後、江戸時代に入って本殿は8回造替され、現在の東本殿・西本殿は文久3年（1863）の造替の時のものである。この流造りの本殿は古い形式をよく残している。境内にはこれらの他、寛永5年（1628）に造替された祝詞舎等の建物が残り、当時の神社景観を現在によく伝えている。

当神社は、加茂川と高野川の合流点に位置し、境内は糺の森という広大な森に包まれ、京都の三大祭のひとつ葵祭が行われるなど古代の祭事を継承している。また、糺の森は、四季に移り変わる自然の美と幽すいが『源氏物語』をはじめ数々の文学に語りつがれ市民の憩いの場となっている。³²⁾

文化財

国宝	東本殿	373	西本殿	374		
国指定重要文化財	東西楽屋（2棟）	337 190	中門東西廻廊（2棟）	339 189	預り屋	340
	西唐門	341	舞殿	342	神服殿	343
	橋殿	344	供御所	345	大炊所	346
	楼門	347	楼門東西廻廊（2棟）	348	摂社出雲井於神社本殿	350
	摂社三井神社本殿	351	摂社三井神社拝殿	352	摂社三井神社棟門	184
	摂社三井神社東西廊下	185	四脚中門	191	叉蔵	352
	東西御料屋（2棟）	353 379	細殿	355	祝詞舎	375
	幣殿	376				
	東西廊（2棟）	377 378				
	国指定史跡	賀茂御祖神社境内	314			



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

<ul style="list-style-type: none"> 視点場（境内） 視点場（参道等） 近景デザイン保全区域 	<p>建造物・庭園</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物 歴史的意匠建造物 界わい景観建造物 京都を彩る建物や庭園 文化財（建築物） 文化財（史跡・名称） 国土地理院社寺データ等 ※ 	<p>樹木</p> <ul style="list-style-type: none"> 天然記念物 保存樹・区民の誇りの木
--	--	---

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

下鴨神社境内の歴史的資産と守っていききたい眺め(2)

[国指定重要文化財]



東西楽屋※



中門東西回廊※



預り屋※



西唐門※



東西廊※



舞殿※



神服殿※



橋殿※



供御所※

[国指定史跡]



賀茂御祖神社境内※



大炊所※



楼門※



楼門東西廻廊※



摂社出雲井於神社本殿※



摂社三井神社本殿※



摂社三井神社拝殿※



摂社三井神社棟門※



摂社三井神社東西廊下※



四脚中門※



又蔵※



東西御料屋※



細殿



東本殿※



西本殿※




祝詞舎※



幣殿※

■ 樹木

イチイガシ  左京D08

[区民の誇りの木]

上賀茂・下鴨両社の祭礼「葵祭」は京都三大祭りの一つ。このイチイガシは、起源は6世紀まで遡るといわれる下鴨神社の「糺の森」に鎮座しています。イチイガシは暖地性の常緑大高木で、巨大なものは30mにもなるといわれています。



イチイガシ  左京D09

[区民の誇りの木]

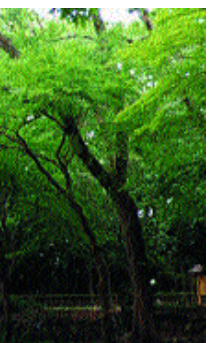
幹の直径が1mを超える大木で、神木として大切にされています。



ケヤキ  左京D10

[区民の誇りの木]

「糺の森」にはケヤキやエノキなどにれ科の植物がたくさん育ち、大きな森をつくっています。



イチヨウ  左京D11

[区民の誇りの木]

天高くそびえ立つ巨木で、神社の神木となっています。



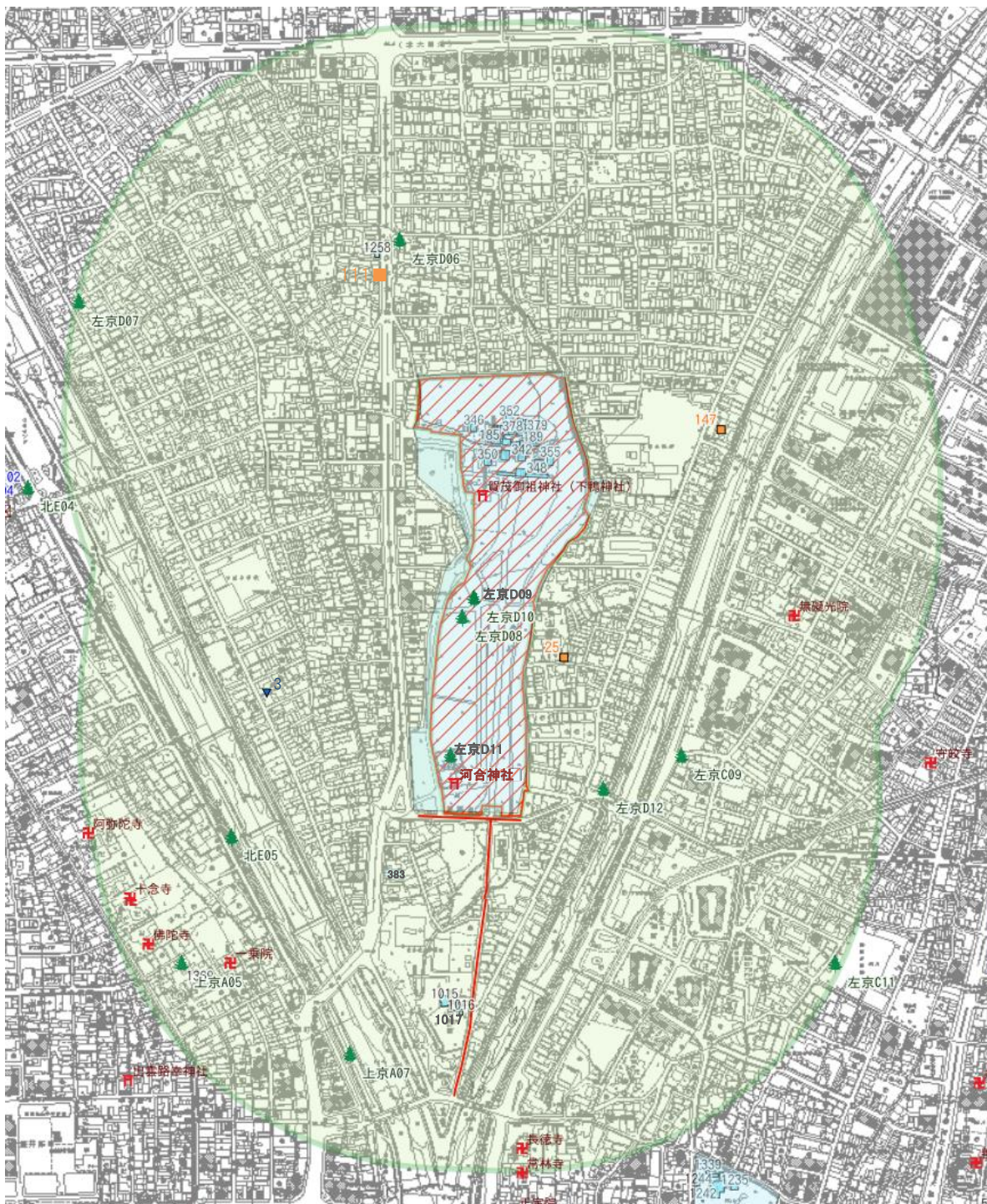
■ 糺の森



名称は、河川合流点の状態を示す只洲に由来し、河合森と記して「ただずのもり」と読むことも多かった。糺の文字が使われた結果偽りを糺す森という意味ももった。古代から禊を行う場所として知られ、また都の東北の大原口、鞍馬口に近接していたため、南北朝内乱期などには軍勢が布陣した、鬱蒼とした木立は、納涼の場として優れ、森を流れる御手洗川・泉川のほとりでの納涼は、江戸期を通じて著名。³⁶⁾

※：(画像) 京都府地図情報統合型地理情報システム (GIS)

下鴨神社周辺の歴史的資産



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】	
	視点場（境内）
	視点場（参道等）
	近景デザイン保全区域
	建造物・庭園
	景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
	歴史的意匠建造物
	界わい景観建造物
	京都を彩る建物や庭園
	文化財（建築物）
	文化財（史跡・名称）
	国土地理院社寺データ等 ※
	樹木
	天然記念物
	保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m2以上の社寺データ

河合神社



糺ノ森にある賀茂御祖神社（下鴨神社）の摂社。小社宅神社が正式名であるが、一般には高野川と賀茂川の合流する地にあたることから河合社とよばれ、只洲社とも記される（拾芥抄・伊呂波字類抄）。また河合社と書いても「タダスノヤシロ」と読むのが慣例であったようだ。「山城国風土記」逸文に見える賀茂別雷神の母、多多須玉依日売命を祭神とする。³³⁾

光福寺(干菜寺)



高野川の東に位置する。浄土宗。干菜山斎教院安養殿と号し、正式には光福寺と称する。空也堂（現京都市中京区）と並ぶ京都の六斎念仏の系流の拠寺として知られる。本尊阿弥陀如来。寺伝によれば、もと乙訓郡安養谷にあり、西山派の祖証空三代の法孫道空を中興の開山とする。³⁴⁾

※1

田中神社



知恩寺の北に鎮座。大国主命を祭神とする。旧村社。中世には賀茂御祖神社（下鴨社）の末社で（雍州府志）、社殿によれば境内摂社の玉柳神社（玉柳稻荷社）はかつてこの付近にあった団子の森より移して合祀したものという。³⁵⁾

現在も残る社家 — 鴨脚家

[市指定名勝]



鴨脚家庭園※2

鴨脚家(いちょうけ)庭園は賀茂川に架かる葵橋東詰の北部に位置する。近隣は、応仁年間からの記録が残る賀茂御祖(かもみおや)神社の社家町であったが、下鴨本通の開通に伴い数多くの社家が退去したため、鴨脚家は唯一現存する賀茂御祖神社の祝(はふり=神官)の屋敷である。

庭園は東西に並列する和館2棟に南面し、形態は全体として歪(いびつ)な方形の擦り鉢といった形態をしており、周囲より一際窪んだ中心部に泉がある。塀際には築山が配され、高さの異なる石積が築山と和館の際を取り囲むようにして高低差を埋めている。石積みの上面は園路を兼ね、数個の石段で連絡しており、山道のような雰囲気醸し出している。泉の水は鴨川の伏流水による湧水であり、かつて祝が禊(みそぎ)に用いたと伝えられる。泉の水面は季節ごとによって湧水量に応じて上下する。

水の供給を湧水という自然の力に頼り、賀茂御祖神社の祝の現存する唯一の屋敷に設けられた庭園として貴重である。

※1：(写真提供)京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

※2：(画像)京都府地図情報統合型地理情報システム(GIS)

下鴨神社周辺のその他の歴史的資産

■ 景観上重要な建築物、庭園等

伽藍下鴨(旧映画監督の家)

[歴史的風致形成建造物]

大正末期から昭和初期に開発が進んだ郊外住宅地に建てられた高塀造りの和風住宅で、隣地の松竹下加茂撮影所の映画監督が住んでいたと言われる。

(指定理由)
・近世まで下鴨神社境内とされた下鴨の農村集落に隣接し、大正末期から昭和初期に開発が進んだ郊外住宅地に建てられた高塀造りの和風住宅であり、外観意匠を守りながら住み継がれている貴重な建造物である。松竹キネマの下加茂撮影所と同時に整備された敷地に建ち、松竹の映画監督が住んでいたと言われており、地域の歴史を伝える重要な建造物である。



▼3

[国指定重要文化財]



旧三井家下鴨別邸※
重文

[府指定文化財]



本満寺蓮乗院霊屋※
府指定

湯川秀樹旧宅

[京都を彩る建物や庭園]

晩年までこよなく庭を愛でた湯川秀樹(1907～1981年)が、昭和24年(1949年)に日本人初のノーベル物理学賞を受賞し、最期まで過ごした場所。日本人初のノーベル賞受賞者である湯川秀樹は、京都が生んだ日本を代表する科学者であり、創造性・革新性に富む学問の街京都を象徴する人物である。



■25



湯川秀樹は1歳で京都に転居後、京都帝国大学教授の子息として京都の歴史文化の中で育ち、京都帝国大学に学び、京都で生涯の大半を過ごした。本旧宅は、晩年の24年間を暮らした住宅で、弟子や各界識者との交流や、非核平和運動についての思索を深めた場所であり、京都と湯川秀樹のゆかりを今に伝える。

永楽庵

[京都を彩る建物や庭園]

大正天皇の皇后が発注された茶室正副二棟のうち、副棟が彦根の西田邸に払い下げられ、昭和25年頃にこの地に移されたものと伝わる。庭は、茶室や離れ等を移築保存した幡新守也の設計で、建築群と一体で高野川河畔の景観を形成している。

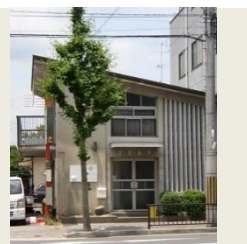


■147

■ 文化財(建築物)、史跡・名勝 等


旧建部歯科医院 [国登録文化財・京都を彩る建物や庭園]

歯科医院と住宅を併用する建物として、昭和28年(1953)に建てられた。設計者の増田友也(1914～1981)は京都大学建築学科を卒業し、同学科の教授を務めた。建築論の研究者として活躍する一方、尾道市役所、蹴上浄水場などを設計した。鉄筋コンクリート造2階建、片流れ屋根で、外壁はモルタル仕上げとする。東側に玄関を開き、医院空間を北側、居住空間を南側に配置する。1階は、南側に居間兼台所、北側を吹抜けの待合室・診療室とする。2階は、寝室、子供部屋を配する。2階室に明障子を用いるなど和風意匠を取り入れる点も注目される。ファサードは縦に3分割され、中央にガラス入り建具、北寄りコンクリート製の縦ルーバーを並べる。延べ床面積約70㎡の小規模の建築で、戦後、池邊陽の「立体最小限住宅」など空間的な豊かさを追求した狭小住宅の提案に位置付けられる。その中でも、医院を併用した鉄筋コンクリート造の作品として評価される。





旧建部歯科医院
国登録 ■111

■ 樹木等


アキニレ：加茂街道  北E05 [区民の誇りの木]


鴨川公園の広場にあるエノキやアキニレは四方に枝を伸ばしています。河川敷の中では日陰をつくるものはほかになく、これらの樹木がもたらす大きな緑陰は貴重な休息場所です。




ソメイヨシノ  上京A07 [区民の誇りの木]

賀茂川の土手に並木状に植えられました。のびのびとした樹形が特徴です。



エノキ：養正小学校  左京C11 [区民の誇りの木]

大正時代の記念植樹といわれていますが、昭和期に一度移植されたようです。



ソメイヨシノ  上京A05 [区民の誇りの木]


区内で最大級のソメイヨシノと思われ、寺の境内は桜の名所となっています。




ソメイヨシノ  左京C09 [区民の誇りの木]


高野川の護岸整備の後に、段階を追って植樹されたサクラ並木です。なかでも北山通から出町柳にかけての約1.5kmの区間は、春先一斉にソメイヨシノが咲きそろう、華やかな花の街道に変身します。




ケヤキ  左京D06 [区民の誇りの木]

下鴨本通の拡幅整備にともなって、街路広場が設けられた際に植栽されました。



ムクノキ  左京D12 [区民の誇りの木]

沿道の植樹帯に育つムクノキで、御蔭橋の目印になっています。



※：(画像) 京都府地図情報統合型地理情報システム (GIS)

景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

鴨川風致地区

【概況】

当地区は、賀茂御祖神社（下鴨神社）及び府立植物園を含む、賀茂川及び高野川の両河川とその沿岸、賀茂川と高野川の合流地点からJR東海道線までの鴨川から構成され、河岸の樹木が、鴨川風致の核である府立植物園、下鴨神社、糺ノ森等の優れた緑地空間と川の清流と一体となって、他の大都市では見られない都心の水と緑の空間を構成している。また、沿岸の大半の住宅地においても、豊かな生垣、植栽が施されている。

【良好な景観の形成に関する方針】

- 下鴨神社、河合神社及び糺ノ森の貴重な自然

賀茂川と高野川の両河川の合流点に位置する下鴨神社の森は、市内中心部から眺望される重要な森であり、また賀茂大橋からは北山及び比叡山の前景をなす森でもある。また、この下鴨神社及び河合神社の一角は、糺ノ森も合わさって、大きな森を形作り、市街地内における貴重な自然系の景観資源となっている。このため、下鴨神社及びその周辺については、これらの風致の維持を図る。
- 下鴨神社参道の社家町の雰囲気を見ることができる沿道景観

賀茂川と高野川の両河川の合流点に位置する下鴨神社の森は、市内中心部から眺望される重要な森であり、下鴨神社の参道は、葵祭の行列が下鴨神社へ入る経路としても重要な意味を持っており、沿道景観として社家町の雰囲気を見ることができる。このため、これらの風致の維持を図る。賀茂大橋からは北山及び比叡山の前景をなす森でもある。また、この下鴨神社及び河合神社の一角は、糺ノ森も合わさって、大きな森を形作り、市街地内における貴重な自然系の景観資源となっている。このため、下鴨神社及びその周辺については、これらの風致の維持を図る。



1) 下鴨神社敷地内の眺望



2) 賀茂大橋からの眺望

歴史遺産型美観地区（下鴨神社周辺）

下鴨神社周辺地域は、京都の産土神である賀茂御祖神社（下鴨神社）周辺と、賀茂川及び高野川の風致地区に挟まれた地域であり、かつての社家町や、昭和初期に形成された住宅地等からなる。また、洛北に通じる幹線道路である下鴨本通沿いは、下鴨神社の社叢である糺ノ森の緑を背景として、端正な通り景観を形成している。こうした景観特性の継承を、この地域の景観形成の基本方針とする。このため住宅地は、下鴨神社の社叢の緑と呼応するよう、生垣を設ける等、植栽に特段の配慮を行うものとする。また、公共用空地に面する外壁面については、3階以上の壁面を1階の壁面より十分に後退させ、周囲への圧迫感を低減させるとともに、日本瓦ぶき等の勾配屋根を有する和風基調の住宅地の保全を図る。さらに、街道に面した京町家等の歴史的建造物が連なる地域については、壁面を揃える等、地域の景観特性に配慮した景観を保全する。



3) 下鴨東通付近の町並み



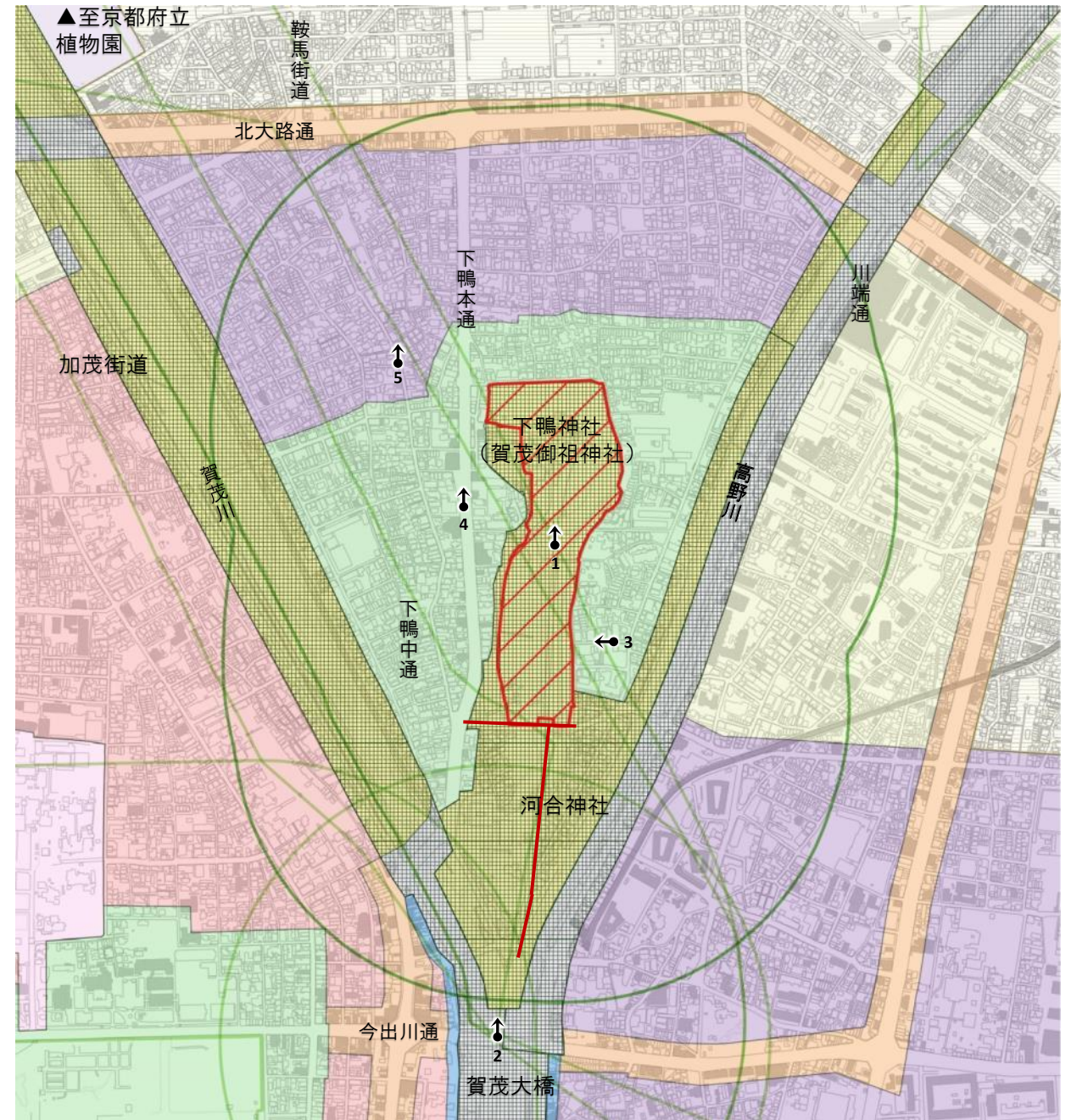
4) 下鴨本通の町並み

山並み背景型美観地区（下鴨神社周辺）

下鴨神社地域は、下鴨神社の北側に位置し、昭和初期に整備された閑静な住宅地と伝統的な京町家を残す松ヶ崎に続く旧街道から構成される。また、この地域の西側に隣接し、風致地区に指定している賀茂川左岸は、生垣や門塀を構えた良好な邸宅が立ち並び、落ち着いた風情を醸し出している。こうした地域の景観特性の継承を、この地域の景観形成の基本方針とする。このため、建築物については、日本瓦ぶきの勾配屋根の和風を基調とし、特に中層の建築物は、近接する世界遺産（下鴨神社）や住宅地との調和に配慮する。また、下鴨神社、賀茂川及び高野川沿いの樹木との調和や周囲の町並みとの調和を図るため、敷地内の緑化及び門、塀又は生垣等により、通り景観の連続性に配慮する。



5) 下鴨中通の町並み



【凡例】		
眺望景観保全区域	景観地区	建造物修景地区
<ul style="list-style-type: none"> 視点場（境内） 視点場（参道等） 近景デザイン保全区域 	<ul style="list-style-type: none"> 山ろく型美観地区 山並み背景型美観地区 岸边型美観地区 旧市街地型美観地区 歴史遺産型美観地区 一般地区 歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区 歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区 重要界わい景観整備地域 沿道型美観地区 市街地型美観形成地区 沿道型美観形成地区 	<ul style="list-style-type: none"> 山ろく型建造物修景地区 山並み背景型建造物修景地区 岸边型建造物修景地区 町並み型建造物修景地区
風致地区		その他
<ul style="list-style-type: none"> 風致地区第1種地域 風致地区第2種地域 風致地区第3種地域 風致地区第4種地域 風致地区第5種地域 風致特別修景地区 		<ul style="list-style-type: none"> 伝統的建造物群保存地区 歴史的風土保存地区 歴史的風土特別保存区域

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

(資料)

- 1) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻 左京区. 平凡社. 1985. p.245
- 2) 増田潔. 京の古道を歩く. 光村推古書院. 2006. p.388
- 3) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.168
- 4) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻 左京区. 平凡社. 1985. p.244
- 5) 下鴨の文化をこどもたちに伝える会. 親と子の下鴨風土記. 下鴨の文化をこどもたちに伝える会. 1991. p.111
- 6) 同上、 p.39-p.43、 p55
- 7) 新木直人. 葵祭の始原の祭り御生神事 御蔭祭を探る. ナカニシヤ出版. 2008. p.96-p.97
- 8) 四手井綱英. 下鴨神社 糺の森. ナカニシヤ出版. 1993. p.159
- 9) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻 左京区. 平凡社. 1985. p.245
- 10) 新木直人. 葵祭の始原の祭り御生神事 御蔭祭を探る. ナカニシヤ出版. 2008. p.96、 p.97
- 11) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻 左京区. 平凡社. 1985. p.244
- 12) 下鴨の文化をこどもたちに伝える会. 親と子の下鴨風土記. 下鴨の文化をこどもたちに伝える会. 1991. p.21
- 13) 同上、 p.111
- 14) 同上、 p.39-p.43、 p55
- 15) 辻晶子・大場修. 京都下鴨地域における近代の市街地形成に関する史的研究. 日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系(52). 一般社団法人日本建築学会. 2012. p.801-p.804
- 16) 新木直人. 葵祭の始原の祭り御生神事 御蔭祭を探る. ナカニシヤ出版. 2008. p.96-p.97
- 17) 宇土純子. 泉川の現状と整備に関する考察-第1報-. 京都芸術短期大学紀要[爪生]第14号. 京都芸術短期大. 1991.
- 18) 四手井綱英. 下鴨神社 糺の森. ナカニシヤ出版. 1993. p.159
- 19) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻 左京区. 平凡社. 1985. p.245
- 20) 同上、 p.244
- 21) 下鴨の文化をこどもたちに伝える会. 親と子の下鴨風土記. 下鴨の文化をこどもたちに伝える会. 1991. p.21
- 22) 四手井綱英. 下鴨神社 糺の森. ナカニシヤ出版. 1993. p.244
- 23) 増田潔. 京の古道を歩く. 光村推古書院. 2006. p.388
- 24) 旧京都府愛宕郡郡役所編. 洛北誌：旧京都府愛宕郡村志. 大学堂書店. 1970. p.133
- 25) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻 左京区. 平凡社. 1985. p.279
- 26) 辻晶子・大場修. 京都下鴨地域における近代の市街地形成に関する史的研究. 日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系(52). 一般社団法人日本建築学会. 2012. p.801-p.804
- 27) 下鴨の文化をこどもたちに伝える会. 親と子の下鴨風土記. 下鴨の文化をこどもたちに伝える会. 1991. p.111
- 28) 増田潔. 京の古道を歩く. 光村推古書院. 2006. p.388
- 29) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻 左京区. 平凡社. 1985. p.246
- 30) 下鴨の文化をこどもたちに伝える会. 親と子の下鴨風土記. 下鴨の文化をこどもたちに伝える会. 1991. p.39-p.54
- 31) 同上、 p.39-p.43
- 32) 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 千年の都 世界遺産. 古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市). 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 1998. p.141-p.142
- 33) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.168
- 34) 同上、 p.633
- 35) 同上、 p.462
- 36) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p
- 37) 下鴨の文化をこどもたちに伝える会. 親と子の下鴨風土記. 下鴨の文化をこどもたちに伝える会. 1991. p.51
- 38) 京都文化博物館学芸第二課編集. 京の葵祭展：王朝絵巻の歴史をひもとく：京都文化博物館開館15周年記念特別展. 京都文化博物館、 2003.4、 p178